



学院長挨拶 社会医療法人明和会 中通高等看護学院 学院長 五十嵐知規

しばらく前のニュースですが、駐日ジョージア大使が電車で空いていた優先席に座った写真をSNSに投稿したことで、大きな議論が巻き起こったのをご存知でしょうか。

優先席に座ったことを批判する意見が寄せられ、それらに対し大使は「空いているのだから座って良い、必要な人がいれば譲る、窓に貼られた説明には座ってはいけないとは書いていない」と返し、賛否両論が飛び交いました。ほとんどの人が擁護してくれた一方、1割ほどは「空いていても座ってはいけない」と非難し続けたそうです。

後のインタビューで大使は、なぜ「座るべきではない」という意見があると思うか問われ、「最初から座らなければ、席を譲るという面倒な行動を採らずに済むからではないか。譲るのは目立つし、隣の人が譲るのを期待して自分は見ても見ぬふりをするという連鎖が起こっている場合もあると感じる」と答えています。

さあ、みなさんはどうですか？、空いている優先席に座りますか？、ちゃんと席を譲ることができますか？

私は大使の考え方に賛成でした。実際、優先席でも空いていれば座るし、高齢者などが乗ってくれば譲っていました。むしろ、優先席が空いたまま、立っている人たちでギューギュー詰めている電車の状況に辟易していました。しかし、ある新聞記事を読んで考え直しました。自身が障害者だという人が「ホームに電車が入ってきた時に優先席が空いていないと、その車両に乗るのは諦めてしまう。なので、優先席は空けておいてほしい」と訴えていたのです。ホームに着いて、優先席が必要な人が乗ってきたら譲ろうというのではダメなことがあるのだと教えられました。SNS上でこの視点での議論があったかは分かりませんが、それまでの優先席に座る座らないの議論がとたんに薄っぺらいものに思えてしまいました。もっとも大使は、多少は議論になるだろうと予感しつつ、「日本ではルールが必要以上に細かく、同調圧力が強い」ことを伝え、考えてもらいたいと思い、あえて投稿したとのことですが。

先のインタビューで大使は「ルールを押し付けるような意見が出る日本社会をどう見るか」という問いに対し、「人間同士のつながりが希薄になり、席を譲り合う時に生じるコミュニケーションを『面倒くさい』と敬遠しているんだと思います。日本社会は、他人と違う決断をするのが非常に難しく、個性的であるのが良しとされないように感じています。一方で、その裏にある統一感のようなものは、合理性が高く、この社会の強さであると思います。でも、同調圧力を過剰なまでに押し付けるのは良くない。無意味な圧力に対抗できる強さを持ちたいです」と答えています。

同感ですが、意識しておかなければいけないことがあると思います。ここまで読んでくれたみなさんも同じように思ってくれていると思います。「自分が知らないこと、気づいていないことが他にもあるかもしれないと常に考えましょう」

各学年の様子

1年生

誓いの式



オープンキャンパス公開授業
「プロジェクト学習」を高校生に
見てもらいました



初めての病院実習
患者さんのところに行く前に、
血圧測定の練習です

点滴静脈内注射～演習～



明るく元気いっぱいの学年です。4月から解剖学や病理学などの基礎的な知識の習得に苦戦しながらも、看護技術におけるグループワーク等ではクラスメイトと協力しながら課題の解決に積極的に取り組んでいます。9月には病院実習で初めて患者さんに援助するという貴重な体験をしました。この経験をもとに誓いの式ではナイチンゲール像のキャンドルの灯りを燭台に灯しながら、全員が自分自身の目指す看護師像を発表しました。「注射」の看護技術の習得も始まり、緊張感が満ちている中で看護師を目指す実感が増えています。これから3月に向けて試験の連続ですが、夢の看護師国家試験合格に向けて、日々、頑張っています。(担任：小田嶋)

2年生



実習ポートフォリオを使って
プレゼンテーション

成人・老年看護学実習



臨床推論
シミュレーション



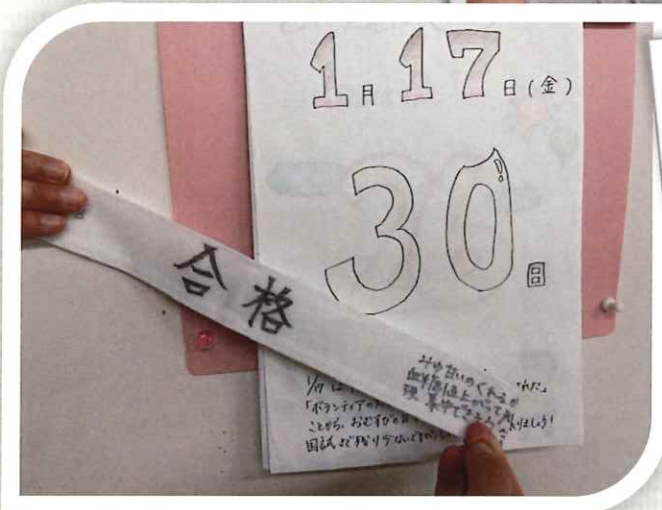
ケースレポート発表会



当校入学後、初めての学院祭開催の運営に携わり、学院の中心学年としての自覚を持ち、役割を果たしながら、自分たちも学院祭を楽しみ交流を深めていました。真面目で何事にも慎重に取り組む学生が多い印象の2年生も基礎看護学実習を経て、山場となる成人・老年看護学実習を終えると同時に、日々沢山の授業課題に優先順位をつけ、クラスの仲間と協力・励まし合い取り組む姿は頼もしく感じました。そして、実習の集大成ともいえるケースレポートに取り組み・発表会を通して互いの看護観に触れ、学びを共有し合う姿は、一回り成長して見えました。今後も成長していく姿を後ろから支え・見守っていききたいと思います。(担任：齊藤)



看護師国家試験に向けて
ラストスパート!



彌高神社へ合格祈願に行きました



中通高等看護学院で過ごす時間もあとわずかとなってきた3年生。すべての講義・実習が終わり、看護師国家試験に向かって奮闘している真っ最中。それぞれの力を存分に発揮し合格してほしいと願う日々です。徐々に緊張感が高まるクラス内には、国試対策委員が中心となり、全員で作った『士気向上アイテム』があります。まずは、個性豊かな国家試験カウントダウンカレンダー。国試問題が記載されていたり、ほっこりイラストが描かれていたり、不安な中でもみんな頑張っている、一人じゃないというメッセージが込められています。そして、クラスメイトからのメッセージ入りハチマキ! ハチマキには、精神統一、士気向上の効果があるうえ、友人からのメッセージ入りとなるとなんとも心強い。国家試験会場で頭に締めることはできませんが、心にきゅっとハチマキ締めて、頑張れ3年生! (担任: 日野)



学院祭



7月27日（土）、第43回学院祭を開催することができました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できず、去年は準備をしておりましたが、大雨被害のため断念せざるを得ませんでした。これまでの学院祭を知らない学生たちが、新しい形の学院祭を創ってくれました。健康診断や災害物品展示、救急救命コーナーなど、看護学校で学んだ学習の成果をお披露目する場にもなりました。また、初めてキッチンカーを呼んだり、学生発で弾き語りライブをしたり、お祭りムードも出て多いに盛り上がりました。今後も中看ならではの特色を出しながら、来場者も学生自身も楽しく交流できる空間を演出していけるよう応援したいと思います。

オープンキャンパス

2024年度は計3回、オープンキャンパスを開催し、高校生77名、保護者28名に参加していただきました。

生活改善プロジェクト



「更衣」の授業



「足浴」の授業



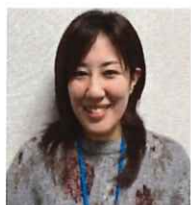
公開授業の後は、学生と高校生の交流の時間を設けました。入試のこと、学生生活のこと、実習のことなどの質問に答えることで、高校生からは、「わからないことをしっかりと聞くことができた」「より看護の仕事に就きたいと思える良い機会だった」「この学校に入りたと思った」などの感想がありました。

<新任職員のご紹介>



専任教員 清水有香

看護師（臨床）、保健師（健康管理センター・訪問看護・保健衛生及び福祉行政）、養護教諭（学校保健）、私の看護人生を導き支えてくれたのは、大切な伴侶と忘れ得ぬ多くの出会いです。
感謝を込め日々学んでいます。



専任教員 渡部絵美

4月に入職し間もなく1年が経とうとしています。学生達の元気な姿と、真剣に看護師を目指そうとする姿を見て、自分にできる事を精一杯やろうと考える毎日です。まだまだ未熟ですが、自分が学生の頃を思い出して、学生と共に成長しながら頑張りたいと思います。



専任教員 工藤洋平

2007年3月に当校を卒業し、教員として17年ぶりに戻って参りました。実習指導や病棟での経験を伝えながら、学生が根拠や目的を大切に、看護のやりがいやおもしろさ、看護師としての自己の成長を実感できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



実習指導教員 加藤香織

改めて学生といっしょに看護について勉強していくなかで、やっぱり素敵な仕事だなと実感しています。先生方のお力をお借りしながら、看護師のたまごを育てるお手伝いをしていきたいと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。



事務員 加藤美咲

昨年9月に着任いたしました。学生の皆さんと直接関わることは少ないのですが、陰ながら微笑ましく見守る一人として職務に努めたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

2025年度 後期入学試験のご案内

出願期間	2025年2月10日（月）～2月19日（水）
試験日	2025年3月5日
試験科目	小論文・面接
試験会場	中通高等看護学院

<入試についてのお問い合わせ>

〒010-0021 秋田市檜山登町 3-18 中通高等看護学院
TEL : 018-832-6019 mail : gakuin@meiwakai.or.jp
※電話でのお問い合わせは、9:00～16:30 にお願ひします。
詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.meiwakai.or.jp/kangaku/>



《編集後記》

2025年は巳年です。
へビは脱皮を繰り返して成長することから、「生命力」や「再生」を連想させます。巳年の「巳」は自らの殻を破り、変化を遂げること、つまり物事が一つの形を完成させ、さらに新しい段階へ進む準備が整った状態を示します。

看護という漢字は、手と目で護ると書きます。思いやりのある看護技術、五感を使った観察力とアセスメント力、豊富な知識で患者さんがその人らしく生きていけるような力をつけて成長して欲しいと願っています（〇）